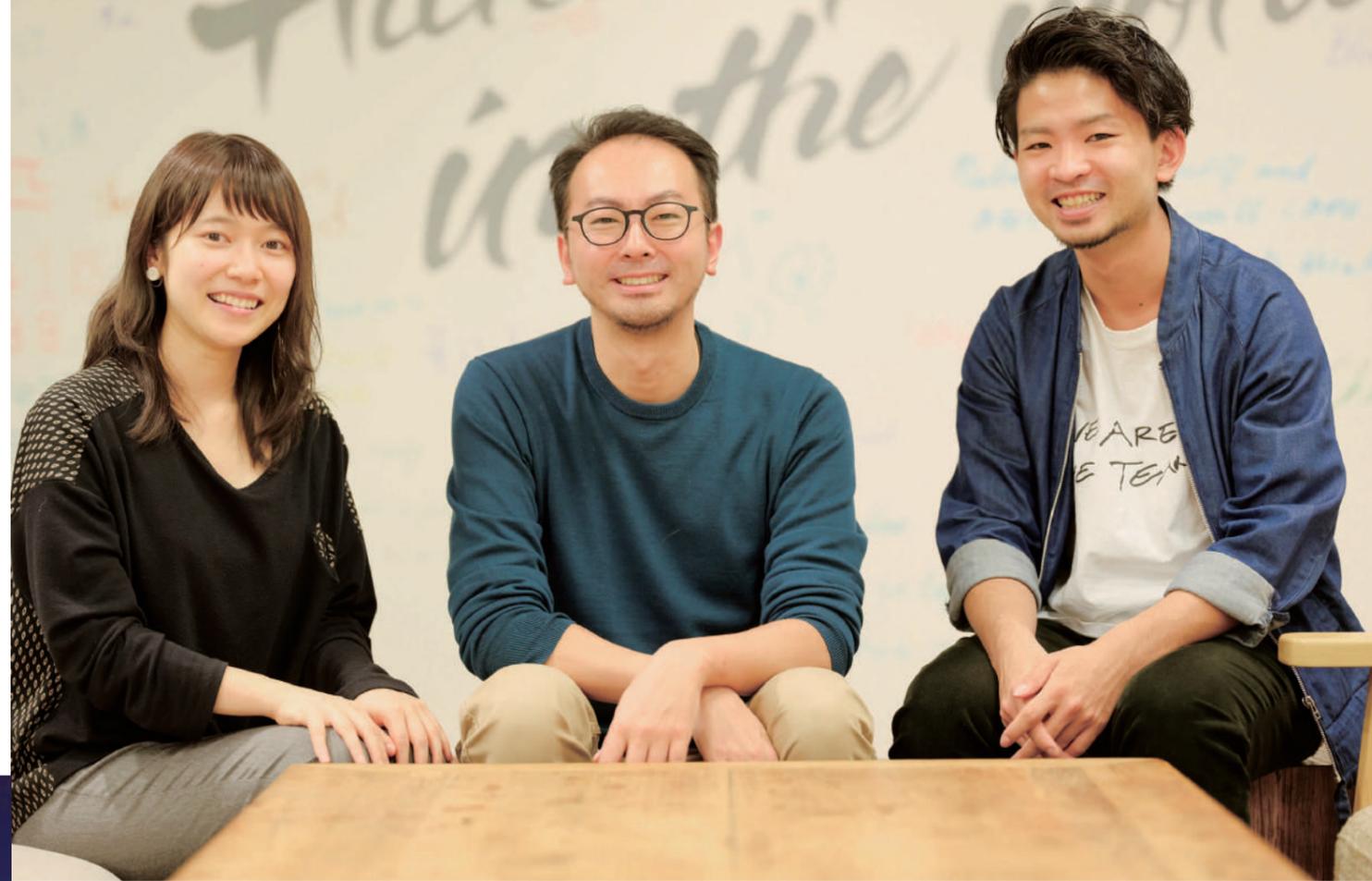


Wak Work

How To Work Excitingly | わくわくする働き方

仕事だけど、毎日がわくわくするような働く現場。
楽しいエネルギーあふれる方々取材しました。



会社だよな、と素直に思えて、「と当時は振り返ります。今では他のデザイナーが大変そうだな時、率先して仕事を分担したりするなど、頼りになる存在です。」

2人目は新卒採用で入社4年目の平根さん。入社時からマーケティングアプリ「Yenta」の開発メンバーに加入し、現在も「Yenta」のデザイナーとして活躍しています。総合職として採用されたにもかかわらず、デザイナーという配属。しかも当初「Yenta」担当のデザイナーは、平根さん一人だったそう。「入社しての新人に、会社の重要なプロジェクトを任せるといふ懐の深さに、驚いたと共にちょっと震えましたね(笑)」



「平根さん、担当以外にも、社内の様々な業務をこなす。」

立場の上下や入社歴に関わらず、仲間を信頼してまずは任せてみる、という姿勢が、周りからひしひしと伝わってきたそう。

そして3人目は、入社して半年という新垣さん。業務では組織改善プラットフォーム「wevox」のデザインを担当しています。大学卒業後、他のIT企業で1年間営業として勤務したのち、アトラエに入社しました。今回の3名の中で唯一、ほかの企業での正社員勤務を経験されている新垣さん。アトラエに入社した当時の印象をうかがうと、「違和感だらけでした(笑)」との答え。「前職も同じ業界で、類似したサービスを扱っていましたが、組織は縦割化されていて、上司の指示には従うのが当たり前という、旧態依然とした企業だったのです。アトラエはまったく逆。誰もが意見を言い合えるフラットな組織であることに、まずびびりました。」

そのほかにも、スタッフのお子さんである小学生が放課後、会社で宿題をしている光景にも、当初は衝撃を受けたそうです。「子供がいるから」という理由で働けなくなるという状況を、会社やチームのメンバーみんながサポートする文化が根付いているのだそう。



「新垣さん。会社のバーに友人を連れてくることも。」

「1日の過ごし方は人によってばらばらです。あまり決まったルールはなく、誰かのサポートが必要な時などはコミュニケーションをとりながら臨機応変にやっていますね。」と新垣さん。

「全員が企画担当なんです。」と紺谷さんが続けます。みんな、それぞれ自分がやりたいことを提案していくので、最初はまさに「カオス」だそう。でも、そんな混沌とした状態から、人を巻き込み、議論を重ねていくことで、思いがけないような新たなモノが生まれるそうです。

企画担当は全社員。カオスな状態から新しい価値を生み出す

普段の仕事の様子を伺うと、基本的にはみなさん、それぞれの作業を黙々とされているそうです。

何気なく始めたカフェ&バーが、社員同士の交流の場に

広々としたオフィスの一角には、半個室のようなボックス席があったり、ソファやバーカウ



オフィスの中のバーカウンターは、紺谷さんのはじめたアトラエカフェ&バーとして、週に数回、定期的に営業。スタッフ同士の交流の場に。

Vol.1

Atræ

組織のあり方にとらわれない 自由なチームが創造力の根源

仲間への信頼が可能にする
多様な働き方

2017年にオフィスを増床&リニューアルした株式会社アトラエさん。求人メディアやビジネスマッチングアプリなど、主にHR領域でのユニークなサービスを展開しています。今回は世代や性別、入社歴の異なる3人のスタッフの方にそれぞれの働き方や、アトラエで働くことの魅力を語ってもらいました。

1人目は、入社7年目の紺谷さん。現在は求人メディア「Geon」のデザインを担当しています。社会人になって以来、映画などの創作活動と並行して、アルバイト生活を続けていたそうです。結婚という人生の節目を迎え、定職に就こうと考えた時、真っ先に頭に浮かんだのがバイト先の一つだったアトラエ。「他の会社も探そうと思ったのですが、でも、アトラエがいい」



「紺谷さん。オフィス内にあるカフェ&バーの店長としての顔も持つ。」